

研究通信

第45号

1963.7 刊
村落社会研究所
専務

原上ケ市西宮
大学学院
学部
学社

「都市との関連における村落の変動」

今年度の大会と課題について

建 見 音 彦

すでに前号の研究通信で今年度の課題の候補として、「農村部化」の問題について島崎氏からそれとらえる視角がまきらかにされていたわけであるが、去る六月二〇日、東京でひらかれた拡大委員会、今年度大会の課題と大会運営の方式について検討されたので、その結果を中心として報告しようと思う。同日の委員会には、福武・中野・森岡・島崎・日野崎・松原・村崎・窪見が出席して開かれた。まず窪田氏からの連絡によつて、一〇月一五日（火）一六日（水）の両日、神戸市菅国民宿舎において今年度の大会を開催することに準備が進んでいることが報告され、つづいて大会課題について検討がすすめられた。

(一)

これまで今年度大会の課題については、「都市化」をいしは「都市と農村」というよりな形で何回か検討されてきたが、都市化といふことはそれ自体きわめて多様な形であらわれてきている。「現象」

であり、「具体的にそれが何を指すかは論者によつて異なり、その理解も区々であるように思へ島崎氏・研究通信四四）われる」ところから、そのまま大会の課題としてとりあげられると、単なる現象についての論議や、用語の検討に多くの時間をとられてしまつておそれがあり、有効な討論が展開しないのではないかと思われる。そこで、課題としてとりあげる場合には、いくつかの限定が必要となつてくる。

第一に、「都市」をいしは、「都市化」の概念規定それ自体について論議することは、この際主要な課題でなく、都市との関連の下

の村落の変動を明らかにすることを主眼とすること。
第二に、その場合、都市との関連での変動といつても、さまざまの時期により、段階によつて問題のあらわれ方は大きくことなつているのであるが、その中でも現在進行しつつある事態は、資本主義の発展段階からしても、また、農業・農村・農家の特質からしても、かつてとは比較にならない重要さをもつて、その変動がとらえられる必要にあるところから、今年度の課題においては、現在の問題に限定すること。

第三に、現在の村落の変動を明らかにする場合、明らかにすべきことは、さまざまの変動の「現象」を羅列することではない。むしろ、そうした現象——都市化といわれるものを含めて——としてあらわれてくる今日の村落の変動を理論的に整理することであり、断片的な現象を説明する今日の村落の変動の理論を検討することである。したがつて、いわゆる都市化の現象を表面的に列挙することは、課題とは考えられないことなどである。

(二)

そこで、以上のように課題の意図するところを規定した上で、

体どのようなことが問題となるかが、大ざっぱに示される必要がある。この問題についての理論的前提は、すでに前号の研究通信に島崎氏によつて示されているが、農業と工業の不均等発展、しかも発展段階をことにするもの共在としての構造的不均等発展の解消としての格差の深化という形でとらえられるわけであるが、まず、特に今日、都市との関連で村落の変動がとりあげられねばならないのは、一つには、農地改革や家族制度の解体などの農村の変動によつて、村落の封建性や農家の自足性が動揺し、都市的諸関係の影響をより強くうけるようになってきたこと。二つには、資本主義的発展が、農産物の商品化、労働力の販売、生産財、消費財の購買などの形でより深く農村をとらえるようになってきていること、三つには、国家独占資本主義の深化にともない、政策として都市的諸関係の導入が構造的不均等発展の矛盾解消のために提起されていることなどがあげられよう。そして、そうした視角から考えるとき、「都市」からの資本主義的市場関係の直接間接の影響下にあつて、農村の小生産者層の分解が現段階にかなる方向と形態において促発されるか」ということが、農村都市化の理論的要点となる。

(島崎氏)

かかる現段階における分解の特質に規定されたものとして、あるいは農村家族の存在形態(半自給的小商品生産者としての存在形態と土地もちプロレタリアートとしての存在形態の分化と、兼業という形で両者の混在)や、部落の解体傾向(階層分化の進展・商品生産及び市場関係の深化にともなう解体の方向と、小商品生産者における自給性の残存としての共同体の基礎の未解体)といった問題やそれらとかがかりあり地域の権力や支配の形態がとらえられるであろう。

ところで、農業と工業の不均等発展は現象・数量的には両者の所得格差としてあらわれる。そして、その或限度をこえた拡大は「経済成長」という資本の要請からしても回避されねばならない。特に昭和三五年以降の所得倍増計画・それに即応した地域開発計画には、そうした国家独占資本主義の危機回避ないしは成長のための調整的色彩が濃厚になつてきていると思われるのであるが、そうした計画によつて、農業・農村社会・農家生活がいかに変貌してくるかが問われる必要があるとともに、それらの計画(農業構造改善事業なども含めて)の策定・実施の過程で、地方自治体の国家への従属化がより強く推進されることも関連して、自治体レベルでの権力構造の再編がいかに進展してきているかが問われねばならないであろう。それは或意味で昭和二八(三〇)年頃をピークにして進められた市町村合併以来の行政の區域化と表裏するものであると思われる。この再編がさきの今日における部落の意義や各種のいわゆる機能集団の役割といかに結びついて、自治体ボス層の再編と農民ないしは地域住民の統合をつなげることとなつていけるかがきわめて重要な問題点となる。

さてこのような形での変動が進展するとき、いかにして地域住民の運動・組織化がすすめられるかが問題となる。これについては、一方には、農業における資本貸労働関係を基底とした農業内の運動が、他方では、より広汎な連帯における運動が考えられ、組織に結集する階層もまたそうした差によつて大きくことなつてくると考えられる。

今日、都市との関連において村落の変動を問題とする場合、その主要な問題としてとりあえず考えられることは以上のような点となる。そして、生活様式においてとらえられるいわゆる都市化現象は、上記の変動の基本的な特質の中にあらわれる現象形態として位置づけられることができるわけである。

(三)

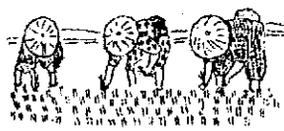
今年度の大会の課題として考えられているのは、右のような意味でとらえられた「村落の変動」であり、それを説きつくす理論的整理にはかならない。そこで、大会の運営においても、従来とはそのやり方をかなり変えてつぎのような方式が考えられた。

大会はさきに記したように、十月十五、十六の両日行われるが、十五日の午前（ないしは午後の一時までの間に）「名産品の報告者」によつて、右のような「都市との関連における村落の変動」についての理論的枠組を提示してもらい、この報告は、事例の報告でなしに、「数化された形で提示される。ついで十五日午後から、右の報告について討論が行なわれる。その過程で報告者を含む参加者から報告に示された理論的枠組を支持しめるには修正する根拠となるような調査事例が示され、それらをめぐつて、報告された枠組が検討される。こうした形で、十六日の午後まで討論がつづけられる。これは、討論を量的にも質的にも有効なものとしようという意図で考えられたやり方であり、その意味から、報告者は、なるべく詳しい報告要旨を早い時期に会員に配布しておき、会員もそれによつて、

事前に、報告の内容を承知しておくと同時に、そこでとりあげられる問題に関連して提示しうる調査事例について、必要なかぎり、正確・詳細に説明できるようなあらかじめ用意しておくことが、この方式を成功させる前提となる。

さて、拡大委員会においては右のように、課題と大会運営の方式について決定したのであるが、その上で、右の趣旨にそつて、今日の村落の変動の問題を一般的に整理して提示する報告者を公募することとした。報告を希望される方は、八月十五日までに、事務局宛申込んでいただきたい。また、その他の方々も、そうした視角から今日いかなる現象が進展しているかを事例として明確に把握しておいていただくようお願いしたい。

以上、きわめて粗雑であるが、拡大委員会の結論を紹介した。個人的な事情からおぼろげな記憶を頼りにせざるをえなかつたこともあり、忠実に意図を伝えていないことをおそれるのであり、次号以下の研究通信でも補正していただければ幸である。

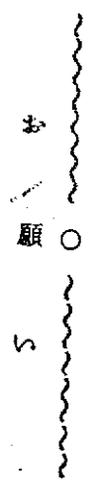


事務局より

研究通信第四五号をお送りします。

今年度の大会には役立つような編集として、去る六月二十日、東京で開かれた拡大委員会の模様を遊見氏に書いていただきました。

これを参考に、秋の大会を盛りあげていただきたいと思います。



この研究通信と同時に葉書を同封しますから、十月十五日、十六日須磨荘で開く大会への出席をお知らせ下さい。期日は八月十五日迄当方へ到着するようにお願いします。多数御出席下さる様願います。

場所

神戸市須磨区須磨海浜公園

須磨荘 (神戸市営・三十七年十一月開業)

電・神戸 ⑦ 七五四二番

交通

国鉄須磨駅 市電離宮道下車(約三分)

下車後徒歩二分。

須磨駅よりタクシーで八〇円。

